

令和3年度研究計画書

令和3年 4月9日

研究種類	富士山研究		
研究課題	保全メッセージが人の意識に及ぼす影響に関する研究： 富士山での外来植物防除策を事例に		
研究代表者	三ツ井 聡美		
研究期間	令和3年度 ～ 5年度 (3カ年)		
共同研究者	堀内 雅弘、宇野 忠、安田 泰輔	研究協力者	
	研究目的	研究目標	
	外来植物防除マットの使用行動および行動意図の促進に關与する要因を明らかにし、それらの要因に働きかける数種の保全メッセージの効果を実測、比較することで、外来植物の持ち込み防止に關する行動を実際に変化させる保全メッセージの在り方を提言する。	<p>(1) 行動意図と要因の一般的傾向の把握 全国の市民を対象とした調査より、防除マットを使用する行動意図に影響する要因を明らかにする。</p> <p>(2) 富士山での保全メッセージの効果の実測 (1)で抽出した要因に働きかける保全メッセージを複数作成し、それぞれを富士登山客に提示することで、行動意図および行動の促進効果を実測、比較する。</p>	
全体の研究計画	<p>自然環境を守るための行動をうながす情報（保全メッセージ）は数多く発信されている。その中で、本研究では、外来植物に關する保全メッセージ（外来植物の持ち込みを防止するため、登山前に靴底についた種子等をマットで落とすように求めること）が、人の意識や行動に及ぼす影響に着目する。</p> <p>(1) 行動意図と要因の一般的傾向の把握 行動をおこす意図に影響を与えると考えられる5つの要因（①行動に対する態度、②規範意識、③行いやすさ、④リスクの認識、⑤場への愛着）に着目し、これらが外来植物の防除マットを使用する行動意図にどれほど影響を与えるのかをアンケート調査で明らかにする。アンケート調査は、全国の市民1000人程度を対象にWeb上で行う。これにより、防除マットの使用行動を効果的に促すために重点的に働きかけるべき要因を把握する。</p> <p>(2) 富士山での保全メッセージの効果の実測 (1)で明らかになった防除マットを使用する行動意図に影響を及ぼす要因に対して、それらを強化するように働きかける保全メッセージを複数パターン作成する。富士山の登山客に、作成した保全メッセージのうち1つを提示し、登山客の行動観察と対面式アンケート調査を行う。行動観察では、実際に防除マットを使用したかどうかを記録し、対面式アンケート調査では、保全メッセージが行動意図の要因を強化したかどうかを明らかにする。保全メッセージは、既に導入されている保全メッセージ（看板）を提示した場合を対照群とし、各要因を強化する保全メッセージを提示した場合を実験群として比較検証する（実験群は最大5つになる）。アンケート調査は、1つの実験群につき、200人以上に実施することを目標とする。これらより、提示した保全メッセージが、行動意図に影響を与え、実際に防除マットの使用行動を促したのかを検証する。</p>		
前年度研究計画及び研究成果	本研究は開始初年度のため該当なし。		
当該年度の実施内容	<p>主に研究目標(1)の達成を目指し、(2)については目標達成に向けた準備を行うこととする。</p> <p>(1) Web アンケート調査の設計、実施、分析を行い、行動意図と要因の一般的傾向を把握する。</p> <p>(2) (1)の結果をもとに保全メッセージを作成し、富士山での保全メッセージの効果の実測に向けた予備調査を実施する。</p>		
期待される研究成果	<ul style="list-style-type: none"> これまで効果が不明なまま発信されていた保全メッセージに対して、行動を促すために重点的に働きかけるべき要因を示すことで建設的な改善策の検討が可能になる 富士山での外来植物の防除策として実効性のある保全メッセージはどのようなものなのか、行政担当者に具体的な看板の内容の変更案を提言することが可能になる 		